



ゆづりは

堺市立図書館だより

第4巻 第1号 (通巻11号)
 発行日 平成21年 6月10日
 編集・発行 堺市立中央図書館〒590-0801
 堺市堺区大仙中町18-1
 電話 072(244)3811
 Fax 072(244)3321
 URL <http://www.lib-sakai.jp/>

本って おもしろいね！ ～子ども読書の日記念学校訪問～

毎年4月23日は「子ども読書の日」です。
 この日は、子どもの読書活動についての関心と理解を深めるとともに、子どもが積極的に読書活動を行う意欲を高めるために設けられたものです。
 子どもの読書活動を推進する取組のひとつとして、図書館では学校と連携を取り、子ども読書の日を中心として、各区の小中学校への訪問を行っています。(平成14年度より実施)



ここでは5月1日に訪問した、中区宮園小学校1年生の様子をご紹介します。

今回は「のぼって のぼって」というテーマで、ブックトーク(テーマに沿ってさまざまな本を紹介すること)を行いました。

「そらへのぼったおばあさん」のおはなしの後、絵本や科学の本、お料理の本など、1年生におすすめできる本を紹介しました。

本を紹介した後は、図書館から持っていった本を自由に手に取ってもらった時間としました。子どもたちは熱心に本を選び、楽しんでいました。まず本と触れ合うことが、読書への興味につながります。



子ども読書の日には、5歳児・小学1年生の保護者、中学1年生の生徒に向けて、読書に関する啓発リーフレットやおすすめ本のブックリストなどを配布するなどの事業も行っています。

図書館ホームページにも掲載していますので、ぜひご覧ください。

<http://www.lib-sakai.jp/kodomodokusyo/school/09houmons.htm>

目次

子ども読書の日記念学校訪問 …1

シリーズ堺の〇〇「堺の銀行」 …2

わたしの“とっておきの一冊”
 ～その10…2

資料(点検)整理期間のおしらせ …2

堺かるた いろはの「と」 …3

この本で解決!
 ～心理学についての質問～ …3

司書のイチ押し!
 『ついでにペロリ 愛蔵版おはなしのろうそく3』 …4

堺市立図書館電話番号一覧 …4

ゆづりは

とは・・・

中央図書館の正面玄関前に、堺生まれの詩人、河井醉茗氏の歌碑があります。「年ごとに ゆづりゆづりて 譲り葉の ゆづりしあとに また新しく」

この歌にちなみ、年月を経て、世代を越えても、次々に新しい情報をお伝えできるように、堺市立図書館だよりに「ゆづりは」と名づけました。

(河井醉茗氏については、「ゆづりは」通巻第1号にご紹介しています。)



堺銀行の引札（現在の広告チラシ）



シリーズ堺の〇〇

「堺の銀行」

世界的な不況がつづくなか、日本各地の銀行など金融界は生き残りをかけて様々な動きをしています。現在、JA堺市を除いて堺市に

本店を置く金融機関はありませんが、明治時代の一時期、堺市内に本店を置く銀行がいくつもありました。なかでも明治26（1893）年に甲斐町大道で開業した「堺銀行」は特に規模が大きく、大阪府内でも中堅に位置する銀行でした。当中央図書館には「堺銀行文書」として、同行の経営に関わる資料が残されています。

その後、明治34（1901）年の恐慌や、明治37（1904）年勃発した日露戦争などの影響もあり、明治44（1911）年の株主総会において、ついに任意解散を決議しました。解散の背景には、不景気な時代の流れもあったようですが、破産といったような追い込まれた解散ではなく、その後の清算処理は円満に終結しました。

堺銀行の盛衰はその後の堺に大きな金融資本が育たなかったことを考えるうえでの参考になるかもしれません。ホームページから「郷土資料」「堺研究」のページもご参照ください。
http://www.lib-sakai.jp/kyoudo/kyo_sakaiken/kyo_sakaikensyu.htm

わたしの“とっておきの一冊”
 ~その10

今回は、市内の小・中学校の先生方から、とっておきを教えてもらいました。1冊の本から、さまざまなことを読み取っておられます。

◆『おかげさん』相田みつを

相田みつをさんの作品は1つ1つ心に響きます。元気がないとき、悩んでいるとき…。相田みつをさんの作品を読むと「よし！がんばろう！」という気持ちになります。字もとても力強くパワーを感じます。相田さんの作品から1つ…「アノネ がんぱんなくてもいいからさ 具体的に動くことだね」

◆『伝説の迷路 ヤマトノオロチの世界から神話と物語の旅へ』香川元太郎

普通の絵本の2倍も3倍も楽しめる本だと思います。かし絵のほかにクイズやむずかしい迷路もあるのですが、その他にも見つければ、おもしろい発見がいっぱいっっ！！いろいろなものが発見できる一冊です。

◆『すみわたる夜空のような』銀色夏生

私がはじめて手に取った詩集です。たまたま本屋さんで見つけた時に、最後に書いてあった詩をすごく不思議に思い手に取っていました。恋愛を大人の目線から描いたり、人生観のようなものまで幅広くテーマを扱っておられ、言葉選びや文章の創り方も秀逸で、図書館で何冊か詩集を借りるたびにすっかりファンになってしまいました。淡々とした言葉に込められた想いに惹かれる不思議な感覚を、ぜひ体験していただきたいと思います。
 「何かがだんだんあいまいに 死んでいくようなつきあいより すみわたる夜空のような孤独を」

資料（点検）整理期間のお知らせ

資料の点検・整理作業を実施するため、
青少年センター図書室は
 6月17日（水）～6月18日（木）
南図書館は 6月22日（月）～6月29日（月）
 の間、休館します。

市内の他の図書館は通常通り開館しております。
 皆様にはご迷惑をおかけしますが、ご理解とご協力をお願いいたします。

資料（点検）整理期間の間、図書館では「蔵書点検」を行っています。
 蔵書点検とは、お店でいうと「棚卸し（たなおろし）」作業にあたります。検索をしたときに表示されている場所に、資料が実際に並んでいるかどうかを確認するために、館内にある資料を一冊一冊点検していく作業です。

今年度の各館の資料（点検）整理期間の予定

平成21年	初芝分館	10月	1～2日
	西図書館	10月	5～9日
	東百舌鳥分館	10月	14～16日
	中図書館	10月	19～23日
	中央図書館	11月30日	～12月4日
	堺市駅前分館	12月	9～11日
平成22年	人権ふれあいセンター図書ホール	1月	20～22日
	樺分館	1月	27～29日
	美木多分館	1月	27～29日
	北図書館	2月	1～5日
	美原図書館	2月	15～22日



東洋の
ベニスといわれた
むかしの堺

堺かるた - いろはの「と」 「東洋のベニスといわれたむかしの堺」

戦国時代末期、宣教師ピエラは本国に送った手紙の中で「日本全国で堺の町ほど安全なところはない」と書いています。

海と堀で囲まれた地理的条件だけでなく、商人たちが町の代表となって治めた自治の町だったことから、イタリアの自由都市ベニスに例えられました。

<参考文献> 『十六・七世紀イエズス会日本報告集』（同朋舎）、『むかしの堺』（はとぶえ会）

この本で解決！ ～心理学についての質問～

こころの色や形はわかりませんが、誰でもみんな必ず持っているものですね。今回は身近で不思議な「こころ・心理学」について調べてみました。

だまし絵で、見方によって若い女性にも老婆にも見える絵が見たい。

「嫁と義母」「娘と老婆」などのタイトルを持つこの絵は両義（多義）図形の代表例として、脳や錯覚を扱った本、例えば、『**心を生み出す脳のシステム**』（日本放送出版協会）、『**逆さメガネの心理学**』（河出書房新社）などに掲載されています。また『**だまし絵百科**』（筑摩書房）や『**錯視芸術の巨匠たち**』（創元社）などの「だまし絵」の本にも載っています。この絵の来歴について上記の本の情報を総合すると、まず19世紀末にドイツの作者不詳の絵葉書として登場、その後、私たちが本などでよく目にする絵（ヒル W.E.Hill 画）が描かれたのち、1930年、心理学者のポーリング E.G.Boring によって、この絵が「両義図形」として発表され、有名になったとされています。

フロイトの「喪の作業（仕事）」についての論文が見たい。

『**心理臨床大事典**』（培風館）の「喪の作業」の項を調べると、この論文のタイトルが「悲哀とメランコリー」であることがわかりました。この論文は『**フロイト選集第10巻**』（教文館）に収められています。「喪の作業（仕事）」は、精神分析の創始者フロイト S.Freud の提唱した概念で家族など「失った対象から次第に離脱していく心理過程」（同事典より）を指します。『**あなたは、子どもに「死」を教えられますか？**』（作品社）によると、「喪の作業」とは、今後の人生の計画に、かけがえのない人の喪失の事実を受け入れる心の作業であり、そのような心の作業を経て、対象の喪失を乗り越えることにより、「亡くなった人は、思い出のなかに場所が与えられ、生き残った者の心のなかで存在しつづける」とのことです。

生々しい戦争ドラマをテレビで見て子どもがショックを受けているようだ。このような時、親は子どもの心にどのように寄り添えばよいか、参考になる本を探している。

このようなケースでは、ショックの度合いによってはカウンセラーまたは医療スタッフによるケアが必要な場合がありますので、専門機関に相談するという選択肢も考慮に入れてください。堺市では「**さかい☆HUG はぐネット 堺市子育て支援情報総合サイト**」というホームページ（※下記アドレス参照）で、「支援・相談」に関するコンテンツを設けています。

以上をふまえた上で、資料をご紹介します。このような場合、児童心理学の知見が参考になります。『**子どもの喪失と悲しみを癒すガイド**』（創元社）は、「死」という喪失体験に多くのページが割かれていますが、傷ついた心、引越、離婚、病気を喪失体験として、死と同列に扱っているのが特色です。同書の第4章では「悲しみを解決する方法」として、お話を作る、文章を書く、手紙を書く、などのアイデアが記されています。他に『**私たちの先生は子どもたち！**』（青海社）や『**あなたは、子どもに「死」を教えられますか？**』（作品社）も参考になります。先ほど「喪の作業」についてご紹介しましたが、失った対象に向けて、文章や手紙を書く行為も「喪の作業」の一つなのかもしれません。



(※)「さかい☆HUG はぐネット」アドレス
http://www.city.sakai.lg.jp/city/info/_katei/index.html

司書のイチ押し!

「ついでにペロリ 愛蔵版おはなしのろうそく 3」 / 東京子ども図書館

昔話と言って思いつくお話はなんでしょう。「ももたろう」「いばら姫」・・・誰でも1つや2つは思いつくお話があるのではないのでしょうか。

もう随分、昔話なんて読んでいないというあなた、久し振りになつかしいお話を楽しんでみませんか。そんなときにちょっと開いてみるのにぴったりなのが「**愛蔵版おはなしのろうそく**」です。手のひらサイズで持ち運びもらくらくです。

「**ついでにペロリ 愛蔵版おはなしのろうそく3**」に収録されているお話をみてみましょう。

「**三まいのお札**」知ってる知ってる、小僧さんがお札を投げて山とか川とか出して・・・でも、あと1枚は何に使ったんだっけ。おや、小僧さんがお寺に逃げ帰っておしまいかと思ったらまだ続きがあった。あれ、これって同じ本に収録されている「**長ぐつをはいたネコ**」と似てるところがあるじゃない（どこが似てるか思い浮かんだあなたは昔話通!?)。

「**ラフンツェル**」って長い髪を塔からたらず場面があまりにも有名だけれど魔女にばれたあとはこういう展開だったのか。

「**行けっちゃんがさがさ、行くなっちゃんがさがさ**」ってなんだか覚えがあると思ったら「**むら梨とり**」にてできたのね。

「**あくびが出るほどおもしろい話**」これは昔話ではないのかどれどれ・・・「ここから北へ北へとすすんでいったある南の国に、たいへんかしこい、ばかな男がすすんでいた。ある朝、夜が明けてあたりが暗くなったので、男は目をさました。外はすばらしくよいお天気で、雨がザアザアふっていた。(以下続く)」

…なんてフムフムと読んでいたら、あっという間に読み終わってしまいます。どれ、他の巻もちょっと覗いてみようとなるかもしれません。それにしても、知っているつもりのお話でも、意外と忘れてしまっているものだなというのが筆者の正直な感想。

「おはなしのろうそく」はもともとA6判(ハガキサイズ)、48ページの小冊子としてつくられ、子どもたちに「おはなしして」とせがまれたときにすぐ応えられるようにと大人向きに編集されたお話集のシリーズです。1冊の中に、昔話を中心としたお話、詩、わらべうた、手遊びなど5、6編が集められています。1冊めが刊行されたのは1973年で、2008年までに27冊が刊行されています。

愛蔵版は、それまでの「おはなしのろうそく」の2冊分を1冊にまとめ、活字も大きくし、ふりがなもつけて、子どもたち自身も楽しめるようにしたもので、現在、8冊が刊行されています。大社(おおこそ)玲子さんの親しみを感じさせるシンプルなカットもお話のイメージにピッタリで、大人も子どももみんなで楽しめる文字通り愛蔵版です。(T)

堺市立図書館電話番号一覧

音声応答サービス	280-0415
中央図書館	244-3811
くすのき号	244-3811
堺市駅前分館	222-0140
中図書館	270-8140
東百舌鳥分館	234-9600
東図書館	235-1345
初芝分館	286-0071
西図書館	271-2032
南図書館	294-0123
梅分館	296-0025
美木多分館	296-2111
北図書館	258-6850
美原図書館	369-1166
人権ふれあいセンター図書ホール	245-2534
青少年センター図書室	228-6331